

日本アジア言語文化専攻（日本語領域）

解答例・出題意図

設問 I

[出題意図]

文法研究における重要な概念について、それぞれの持つ知識に基づいて、適切に説明できるか否かを確認する。

解答例:

さまざまな言語形式が担う文法的意味あるいは文法的機能が、ある同じ類あるいはグループの中で互いに対立していると見なされるとき、その類（グループ）を文法カテゴリ（文法的範疇）と呼ぶ。例えば、

- ・テンス (Tense, 時制) という文法カテゴリの中には、<過去> と <非過去> という文法的意味（機能）が含まれ、{-タ: /-た /- /-かった /- /-だった /} という形式が <過去> を、{-非タ: /-u /- /-る /- /-い /- /-だ /} という形式が <非過去> を担うことで、互いに対立している（非丁寧体、主文末の場合）。
- ・授受（仮称）という文法カテゴリの中には、-テヤ r- /-テアゲ- という形式、-テクレ- という形式、-テモラ w- という形式がそれぞれ担う文法的意味（機能）が含まれ、何も現れない無標（-φ-, ゼロ形式）が消極的に担う文法的意味と合わせて、互いに対立している。
- ・接続叙法（仮称）という文法カテゴリの中には、{-レバ: /-e ば /- /-れば /- /-ければ /- /-なら (ば) /} という形式、{-タラ: /-たら /- /-かったら /- /-だったら /} という形式、{-ト: /-u と /- /-ると /- /-いと /- /-だと /} という形式がそれぞれ担う文法的意味（機能）が含まれ、互いに対立している（非丁寧体）。このカテゴリには、{-ナリ: /-u なり /- /-るなり /} という形式、{-ヤイナヤ: /-u やいなや /- /-るやいなや /} という形式がそれぞれ担う文法的意味なども、主要でないものとして含まれる。

設問 II

[出題意図]

同じ「A のが、B だ」という形式をとる文でありながらも 3 つの異なる側面がある。これらの出現頻度がテキストのジャンルによって異なると先行研究でも指摘されていることから、3 種の違いが説明できることは重要である。こうした意味の違いを説明できる力を求めたい。解答のポイントは以下の通り。

(1) 私が特にお勧めしたいのが、この本です。

情報の焦点が述語（この本です）に位置する表現であることが説明出来ているか。そして、それと同種の例が挙げられているか。

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

日本アジア言語文化専攻（日本語領域）

解答例・出題意図

(2) 誰も見直しをしなかったのが、事故の原因です。

(1) とは反対に、情報の焦点が主格ガ節（誰も見向きをしなかったの）に位置する表現であることが説明出来ているか。そして、それと同種の例が挙げられているか。

(3) 数年前は誰も見向きもしなかったのが、今や空前の喫茶ブームだ。

主格ガ節の状態（数年前まで誰も見向きもしなかった）が、述部（空前の喫茶ブームだ）へと変化していることが説明できているか。そして、それと同種の例が挙げられているか。（情報の焦点が文全体であるという趣旨の回答も可）

設問Ⅲ

[出題意図]

言語学・日本語学・方言学の用語を問い、前提知識を測る内容にした。用語は音声学・音韻論、形態論、格標示、意味機能、言語系統・方言類型と特定の分野に偏らないものを選定した。

解答例：方言研究に特に関連する用語3つを例として解答する。

(a) 多型アクセントとN型アクセント

多型アクセントは名詞の拍数が増えるとアクセント型も増えるタイプである。東京方言や京都方言が例として挙げられる。これに対し、N型アクセントは名詞の拍数によらずアクセント型が1つ、2つあるいは3つに収まるものである。N型アクセントのうち二型アクセントの例として、鹿児島市方言や長崎方言が挙げられる。

(d) カ語尾、イ語尾

形容詞の形態的特徴に関する用語で、カ語尾はuma-ka「美味しい」yo-ka「よい」のように形容詞（あるいは形容動詞）に接続する接辞-kaを指す。肥筑方言・薩隅方言に見られる。イ語尾はuma-i「美味しい」yo-i「よい」のように形容詞に接続する接辞-iを指す。

(f) 状況可能、能力可能

可能表現に関する意味的な違いに関する用語で、状況可能は動作主体を取り巻く外的な条件により動作の実現の可能・不可能であることを表すのに対し、能力可能は動作主体の能力によって動作の実現の可能・不可能であることを表す。例えば、九州方言では、状況可能の場合に「（天気が悪くて）イケン」というのに対し、能力可能の場合には「（おぼけが怖くて）イキキラン」のように、可能を表す形式に区別が見られる。